

5. 6 日付チェック (DATECK)

ZADATECK

機能

年号と日付を指定して、その日付が範囲内か否か、チェックを行う。年号が省略された場合日付は西暦とし、指定された場合和暦としてチェックを行う。

呼び出し形式

一般形式

$$@ZADATECK \left(\begin{array}{c} [\Delta] \\ 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \\ 5 \end{array} \right), CKDATE, RESULT);$$

1. 西暦日付チェックを行う場合

@ZADATECK(, CKDATE, RESULT);

2. 和暦日付チェックを行う場合

$$@ZADATECK \left(\begin{array}{c} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \\ 5 \end{array} \right), CKDATE, RESULT);$$

番号	パラメータ	指定データ名	I/O	データ属性	説明
1	—	1 2 3 4 5	—	—	西暦の時省略する。 1：明治の時 2：大正の時 3：昭和の時 4：平成の時 5：令和の時
2	CKDATE	年月日	I	9 (—)	西暦日付チェックの時西暦8桁(YY YYMMDD)で指定 和暦日付チェックの時和暦6桁(YY MMDD)で指定
3	RESULT	結果	O	9X(01)	9：第1パラメータ指定エラー (省略, 1, 2, 3, 4, 5以外) 1：日付チェック結果エラー (範囲外) 0：正常

説明

パラメータ対応表

	パラメータ番号	1	2	3
呼び出し番号	パラメータ名	-	C	R
	呼び出し形式		K	E
			D	S
			A	U
			T	L
			E	T
1	西暦日付チェックを行う場合		○	○
2	和暦日付チェックを行う場合	○	○	○

○：必須 △：任意

- ・ 年号を省略した場合は、西暦日付チェックとみなし日付をYYYYMMDD形式で指定する。年号を指定した場合は、和暦日付チェックとみなし日付をYYMMDD形式で指定する。
- ・ 和暦の指定による範囲チェックは次のとき正しいものとする。

明治	1年 9月 8日	～	45年 7月 29日
大正	1年 7月 30日	～	15年 12月 24日
昭和	1年 12月 25日	～	64年 1月 7日
平成	1年 1月 8日	～	31年 4月 30日
令和	1年 5月 1日	以降	

利用例

- ① 西暦1986年2月25日が西暦として妥当な日付かどうかチェックする。
 - ② 昭和37年3月12日が和暦として妥当な日付かどうかチェックする。
- 以下のように指定データ名を各々のパラメータに対応させる。

指定データ名	パラメータ
処理決定パラメータ	省略 (①の場合) 3 (②の場合)
年月日	PARAM01
結果	RETURNCD

01 PARAM.

02 PARAM01 PIC 9(08).

02 RETURNCD PIC 9(01).

以下にコーディング例を示す。

- ① 西暦日付チェックを行う場合

PROCEDURE DIVISION.

PROC-S.

MOVE SPACE TO PARAM.

MOVE 19860225 TO PARAM01.

@ZADATECK(, PARAM01, RETURNCD);

DISPLAY NC"処理決定パラメータ → " "△".

DISPLAY NC"年月日 → " PARAM01.

DISPLAY NC"RETURNCD → " RETURNCD.

PROC-E.

STOP RUN.

- ② 和暦日付チェックを行う場合

PROCEDURE DIVISION.

PROC-S.

MOVE SPACE TO PARAM.

MOVE 370312 TO PARAM01.

@ZADATECK(3, PARAM01, RETURNCD);

DISPLAY NC"処理決定パラメータ → " "3".
DISPLAY NC"年月日 → " PARAM01.
DISPLAY NC"RETURNCD → " RETURNCD.
PROC-E.
STOP RUN.

(結 果)

- ① 西暦日付チェックを行う場合
処理決定パラメータ → △
年月日 → 19860225
RETURNCD → 0
- ② 和暦日付チェックを行う場合
処理決定パラメータ → 3
年月日 → 370312
RETURNCD → 0

よって両日付共、範囲内である。